

# 学校だより



## 練馬特別支援学校の第2章の始まり

校長 渡辺 裕介

御入学、御進級おめでとうございます。新入生、普通科48名、職能開発科20名を迎え、総勢192名でのスタートです。新しい1年生を初め、生徒、保護者の皆様にも実りある1年であるようにと願っております。

練馬特別支援学校校長の渡辺裕介と申します。令和4年度に着任し3年目となります。今年度も、生徒の「自立と社会参加へのチャレンジ」を目指して、日々の学校生活をこれまで以上に充実させ、生徒一人ひとりの力を成長させる教育活動の展開に努めてまいります。

さて、「学校だより」の記事のタイトルとして「練馬特別支援学校の第2章の始まり」と書かせていただきました。

本校は今年度、13年目を迎え、普通科に加えて新たに職能開発科を設置いたしました。令和3年度から始まっていた体育館棟の改築工事も令和5年10月によりやく終了し、新しい体育館での授業や行事が実施できるようになりました。

これまでと校舎の環境も変わりましたし、職能開発科が設置したことにより、本校の教育課程も変わっていきます。また、新型コロナウイルス感染症が5類になったことを受けて、令和6年度から学校行事も本格的に実施して参ります。

こうしたことを併せて考えていくと、開校から12年間、知的障害特別支援学校高等部単独校として地域に根差したキャリア教育の実績を積み上げてきたことを第1章として、これからは普通科と職能開発科の二科の連携による練馬特別支援学校の第2章が始まったように感じています。

新たなスタートです。きょううまく行かないことも出てくると思います。しかし、そのうまく行かないことをどうしたらよいか、生徒と教職員が一緒になって工夫を重ねていった先に、練馬特別支援学校における教育の更なる充実があると考えています。

本校に関わる皆様のご健勝と更なる充実を祈念するとともに、練馬特別支援学校の新たな取り組みへのご理解とご協力についてお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。